

法 学 号 外
平成 28 年 4 月 13 日

各 私 立 学 校 長 様

岩手県総務部法務学事課私学・情報公開課長

第 55 回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成 28 年度）について
このことについて、別添のとおり通知がありましたので、お知らせします。

【担当】私学振興担当 中村

電話 019-629-5041 FAX019-629-5049

メールアドレス：AH0007@pref.iwate.jp



日学歯発第27号

平成28年4月7日

都道府県庁

私立学校主管課 御中

一般社団法人 日本学校歯科医会
会 長 丸 山 進



第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度）について

平素より学校歯科保健ならびに本会会務運営にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記事業に関しましては、学校歯科保健の普及向上のための事業として主催し、例年、文部科学省からの後援もいただいている事業です。全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象に本会の加盟団体〔各県（市）学校歯科医会または歯科医師会〕を通して募集の依頼をいたし、優秀な学校（園）を表彰しており、今年度は別添規程のように実施いたします。

標記事業は公立学校だけでなく私立学校も含む学校（園）を対象としておりますので、私立学校を主管しております貴課へ標記事業へのご理解とご協力をお願い申し上げます。今年度の書類をお送りさせていただいた次第です。

なお、募集に関しましては本会の加盟団体を通して行っておりますので、詳細につきましては貴地区管下の本会加盟団体にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。各加盟団体の連絡先につきましては、本会ホームページ（<http://www.nichigakushi.or.jp>）「加盟団体」一覧表をご参照ください。

また、お忙しいとは存じますが、私立学校（園）への本事業への周知ならびに参加への呼びかけにつきましても、何とぞご配慮いただきますようお願い申し上げます。



第 55 回全日本学校歯科保健優良校表彰への応募にあたって

- 規程の「推薦の方法」に記載のとおり、合併・統合後の学校（園）につきましては、2 年間経過後に応募が可能となります。
- 調査票記入上の注意にも記載しておりますが、小学校、中学校、高等学校の調査票の「3. 歯科保健状況（2）」の欄には現小学 6 年生、現中学 2 年生、現高校 2 年生の本年度とその児童、生徒の前年度の状況について算出して記入してください。（調査票記入上の注意「3. 歯科保健状況（2）」参照）
- 中等教育学校につきましては、前期は中学校、後期は高等学校の調査票を用いて推薦することが出来ます。また、同一校で前期と後期で両方の応募は可能ですが、その場合は応募校数は 2 校の扱いとなります。
- 「行政または各種団体が実施する学校保健に関する全国規模の調査研究事業の対象校で事業指定期間中の学校」につきましては、昨年度と同様にこれらの学校（園）も推薦可能です。ただし、当該学校（園）についての表彰は「奨励賞」のみの選考対象となります。
- 表彰式は第 80 回全国学校歯科保健研究大会〔東京都、11 月 16 日（水）〕の式典で行う予定です。今年度優秀賞に選出された学校は、第 80 回全国学校歯科保健研究大会でポスター発表をしていただくよう依頼いたしますので、応募の際はその旨お含みおきくださいますようお願いいたします。
- 表彰種別につきましては例年同様に、規程の中の「審査の方法」に記載のとおり「優秀賞、日本学校歯科医会会長賞、日本歯科医師会会長賞、奨励賞に該当する学校（園）を選考し、決定する」としております。よって、推薦いただいた学校（園）が選考において、上記のいずれの賞にも該当しない場合がございます。

第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度）規程

- 名 称：**全日本学校歯科保健優良校表彰
- 主 催：**一般社団法人日本学校歯科医会・公益財団法人日本学校保健会
- 後 援：**文部科学省・公益社団法人日本歯科医師会
- 目 的：**文部科学省の学校歯科保健参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」の理念に基づき、学校教育目標の具現化を目指した活動を推進し、全国的に範とするに足る成果を上げた学校の表彰を行い、もって幼児・児童生徒の歯・口の健康づくりの目的達成を図るとともに、「食」などの基本的生活習慣の形成や心の健康づくり等を目指した確かな健康観の育成に資することを目的とする。

表彰式の期日及び場所

平成28年11月16日（水）第80回全国学校歯科保健研究大会（東京都）の式典

表彰の対象

国公私立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校

推薦の方法

1. 日本学校歯科医会加盟団体は、各都道府県、指定都市の教育委員会等と協議の上、当該都道府県ならびに指定都市の学校（園）の中から、歯・口の健康づくり計画を立案し、実践を継続し、成果を上げた学校（園）で、今後の学校歯科保健活動に有為となる学校（園）を選定し本会へ推薦する。
2. 各都道府県、指定都市ごとの被表彰候補校の推薦校数は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の5校種から3校（園）を推薦できるものとし、これに本会会員数により推薦校数を増加する。
なお、出来るだけ同一の校種から推薦が重複していないことが望ましい。
3. 加盟団体は、できるだけ実地審査をした上で推薦することが望ましい。
4. 本会の当事業の審査委員会では、歯・口腔の健康診断結果の数値よりも学校における保健教育、保健管理ならびに組織活動の実態を総合的に評価するので、学校を推薦される際は配慮すること。
5. 合併後の学校（園）の推薦については、合併後2年を経過していること。
6. 中等教育学校については、前期・後期の教育課程ごとに中学校・高等学校の調査票を用いて推薦することが出来るものとする。

審査の方法

1. 日本学校歯科医会は、全日本学校歯科保健優良校表彰審査委員会を設けて選考を行い、各校種ごとに表彰順序の上位から優秀賞、日本学校歯科医会会長賞、日本歯科医師会会長賞、奨励賞に該当する学校（園）を選考し、決定する。
2. 行政または各種団体が実施する学校保健に関する全国規模の調査研究事業の対象校で事業指定期間中の学校については、奨励賞のみの選考対象とし、優秀賞、日本学校歯科医会会長賞、日本歯科医師会会長賞への選考の対象にはしない。
3. 優秀賞の候補校（園）は、日本学校歯科医会による実地審査を行う。
4. 審査委員会の構成、審査の基準は別に定める。

表 彰

1. 優秀賞は幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校は各1校ずつとし、小学校は3校とする。
2. 実地審査の結果をもって優秀賞の学校（園）を文部科学大臣賞に申請する。

選考の基準

1. 選考の基準は別に定める

締切日：平成28年7月29日（金）までに（一社）日本学校歯科医会へ必着のこと

第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度） 選考の基準

1. 幼稚園教育の基本に基づき、数年間以上にわたって健康にかかわる活動が充実していること。
2. 指導計画における歯科保健の位置付けがなされており、家庭との連携を図りながら、教育、管理、組織活動が協調的に機能していること。
3. 年間を通じて歯科保健活動が実施され、また、家庭や地域との連携も意図された具体的な展開が図られていること。
 - ① 園の活動および園の行事等で毎年1回以上、健康診断結果等を踏まえた歯・口の健康づくりに関する活動が実施されていること。
 - ② 保護者会等で歯・口の健康づくりが取り上げられていること。
 - ③ 特色ある歯科保健活動が行われていること。
 - ④ 園児が自律的および自立的に歯科保健活動を行えるような教育活動が実施されていること。
 - ⑤ 歯科保健における課題に対応した多様な活動を実施していること。
4. 本年度の健康診断の歯の検査結果における園全体のむし歯（う歯）のある者の割合が55%以下であること。
5. 園歯科医による健康相談、養護教諭等による健康相談、個別的な歯科保健指導など健康診断の事後措置が着実に実行されていること。
6. 歯科保健指導のための教職員の園内外の研修の重要性を認識し、実践していること。
7. 歯科保健について家庭、地域との連携が円滑に行われ具体的な取組がみられること。
8. 園歯科医が定期健康診断以外にも執務し、事後措置、健康相談、個別的な歯科保健指導にも熱心に取り組み、積極的に勤務していること。
9. 健康診断を保健管理面に限らず、保健教育上に配慮し活用していること。

第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度） 選考の基準

1. 健康観の育成に関する理念が明確であり、数年間以上にわたって学校保健全般の活動が充実していること。
2. 学校保健計画における歯科保健の位置付けが明確であり、ヘルスプロモーションの理念の下、発達段階に即した具体的で適切な歯科保健の目標が設定され、その目標の達成のために保健教育、保健管理、組織活動のそれぞれの内容が充実し、協調的に機能していること。
3. 年間を通じて歯科保健活動が実施され、また、家庭や地域との連携が意図され具体的な展開が図られていること。
 - ① 学級活動および学校行事等で每学期1回以上、健康診断結果等を踏まえた歯・口の健康づくりに関する活動が実施されていること。
 - ② 児童会活動で歯・口の健康づくりが取り上げられていること。
 - ③ 特色ある歯科保健活動（総合的学習を含む）が行われていること。
 - ④ 児童が自律的に歯科保健活動を行えるような教育活動が実施されていること。
 - ⑤ 歯科保健における課題に対応した多様な活動を実施していること。
4. 本年度の健康診断における歯の検査の結果が以下を満たしていること。
 - ① 6年生の永久歯のむし歯の総数が1人平均2歯以下（一人平均D F歯数が四捨五入で2.0以下）であること。
 - ② C O・G Oの検出が適正に行われていること
5. 学校歯科医による健康相談、養護教諭等による健康相談、個別的な歯科保健指導など健康診断の事後措置が着実に実行されていること。
 （C Oを有する者あるいはG Oと判定された者、歯列・咬合、顎関節、歯垢の付着状態や歯肉の状態が「1」または「2」と判定された者等に対して、文部科学省の学校歯科保健参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」に沿って保健指導や健康相談等の事後措置を行っていること。該当者がいない場合は、その方針が明らかになっていること。）
6. 歯科保健指導のための教職員の校内外の研修の重要性を認識し、実践していること。
7. 歯科保健についてP T A、地域との連携が円滑に行われ具体的な取組がみられること。
 また、学校保健委員会で具体的に歯科保健を含む心身の健康問題が取り上げられていること。
8. 学校歯科医が定期健康診断以外にも執務し、事後措置、健康相談、個別的な歯科保健指導にも熱心に取り組み、積極的に勤務していること（ここでの「勤務」とは、電話等での相談を含まない）。また、学校保健委員会にも積極的に出席していること。
9. 健康診断を保健管理面に限らず、保健教育上に配慮し活用していること。

第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度） 選考の基準

1. 健康観の育成に関する理念が明確であり、数年間以上にわたって学校保健全般の活動が充実していること。
2. 学校保健計画における歯科保健の位置付けが明確であり、ヘルスプロモーションの理念の下、発達段階に即した具体的で適切な歯科保健の目標が設定され、その目標の達成のために保健教育、保健管理、組織活動のそれぞれの内容が充実し、協調的に機能していること。
3. 年間を通じて歯科保健活動が実施され、また、家庭や地域との連携が意図され具体的な展開が図られていること。
 - ① HR活動および学校行事等で毎学期1回以上、健康診断結果等を踏まえた歯・口の健康づくりに関する活動が実施されていること。
 - ② 生徒会活動で歯・口の健康づくりが取り上げられていること。
 - ③ 特色ある歯科保健活動（総合的学習を含む）が行われていること。
 - ④ 生徒が自律的に歯科保健活動を行えるような教育活動が実施されていること。
 - ⑤ 歯科保健における課題に対応した多様な活動を実施していること。
4. 本年度の健康診断における歯の検査の結果が以下を満たしていること。
 - ① 現2年生が1年生の時の永久歯のむし歯の総数が1人平均2歯以下（一人平均D F歯数が四捨五入で2.0以下）であること。
 - ② C O・G Oの検出が適正に行われていること
5. 学校歯科医による健康相談、養護教諭等による健康相談、個別的な歯科保健指導など健康診断の事後措置が着実に実行されていること。
 （C Oを有する者あるいはG Oと判定された者、歯列・咬合、顎関節、歯垢の付着状態や歯肉の状態が「1」または「2」と判定された者等に対して、文部科学省の学校歯科保健参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」に沿って保健指導や健康相談等の事後措置を行っていること。該当者がいない場合は、その方針が明らかになっていること。）
6. 歯科保健指導のための教職員の校内外の研修の重要性を認識し、実践していること。
7. 歯科保健についてP T A、地域との連携が円滑に行われ具体的な取組がみられること。
 また、学校保健委員会で具体的に歯科保健を含む心身の健康問題が取り上げられていること。
8. 学校歯科医が定期健康診断以外にも執務し、事後措置、健康相談、個別的な歯科保健指導にも熱心に取り組み、積極的に勤務していること（ここでの「勤務」とは、電話等での相談を含まない）。また、学校保健委員会にも積極的に出席していること。
9. 健康診断を保健管理面に限らず、保健教育上に配慮し活用していること。

第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度） 選考の基準

1. 健康観の育成に関する理念が明確であり、数年間以上にわたって学校保健（安全）全般の活動が充実していること。
2. 学校における歯・口の健康づくりの諸活動や口腔外傷に対する安全対策など、ヘルスプロモーションの理念の下、保健教育、保健管理、組織活動が協調的に機能していること。
3. 年間を通じて歯科保健活動が実施され、また、家庭や地域との連携が意図され具体的な展開が図られていること。
 - ① HR活動および学校行事あるいは広報手段等で毎年1回以上、健康診断結果等を踏まえた歯・口の健康づくりに関する活動が実施されていること。
 - ② 生徒会活動で歯・口の健康づくりが取り上げられていること。
 - ③ 特色ある歯科保健活動（総合的学習を含む）が行われていること。
 - ④ 生徒が自律的に歯科保健活動を行えるような教育活動が実施されていること。
 - ⑤ 歯科保健（安全）における課題に対応した多様な活動を実施していること。
4. 本年度の健康診断における歯の検査の結果が以下を満たしていること。
 - ① 2年生の永久歯のむし歯の総数が1人平均5歯以下（一人平均DF歯数が四捨五入で5.0以下）であること。
 - ② CO・GOの検出が適正に行われていること
5. 学校歯科医による健康相談、養護教諭等による健康相談、個別的な歯科保健指導など健康診断の事後措置が着実に実行されていること。
 （COを有する者あるいはGOと判定された者、歯列・咬合、顎関節、歯垢の付着状態や歯肉の状態が「1」または「2」と判定された者等に対して、文部科学省の学校歯科保健参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」に沿って保健指導や健康相談等の事後措置を行っていること。該当者がいない場合は、その方針が明らかになっていること。）
6. 歯科保健指導のための教職員の校内外の研修の重要性を認識し、実践していること。
7. 歯科保健についてPTA、地域との連携が円滑に行われ具体的な取組がみられること。
 また、学校保健委員会で具体的に歯科保健を含む心身の健康問題が取り上げられていること。
8. 学校歯科医が定期健康診断以外にも執務し、事後措置、健康相談、個別的な歯科保健指導にも熱心に取り組み、積極的に勤務していること（ここでの「勤務」とは、電話等での相談を含まない）。また、学校保健委員会にも積極的に出席していること。
9. 健康診断を保健管理面に限らず、保健教育上に配慮し活用していること。

第55回全日本学校歯科保健優良校表彰（平成28年度） 選考の基準

1. 健康の育成に関する理念が明確であり、数年間以上にわたって学校保健全般の活動が充実していること。
2. 歯科保健の位置付けが計画的になされており、ヘルスプロモーションの理念の下、発達段階に即した具体的で適切な歯科保健の目標が設定され、自立活動においても教育、管理、組織活動が協調的に機能していること。
3. 年間を通じて歯科保健活動が実施され、また、家庭や地域との連携が意図され具体的な展開が図られていること。
 - ① 健康診断結果等を踏まえた歯・口の健康づくりに関する活動が実施されていること。
 - ② 学校保健活動で歯・口の健康づくりが取り上げられていること。
 - ③ 特色ある歯科保健活動（総合的学習を含む）が行われていること。
 - ④ 幼児、児童生徒が自立のおよび自律的に歯科保健活動を行えるような教育活動が実施されていること。
 - ⑤ 歯科保健における課題に対応した多様な活動を実施していること。
4. 学校歯科医による健康相談、養護教諭等による健康相談、個別的な歯科保健指導など健康診断の事後措置が着実に実行されていること。

（C Oを有する者あるいはG Oと判定された者、歯列・咬合、顎関節、歯垢の付着状態や歯肉の状態が「1」または「2」と判定された者等に対して、文部科学省の学校歯科保健参考資料「『生きる力』をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」に沿って保健指導や健康相談等の事後措置を行っていること。該当者がいない場合は、その方針が明らかになっていること。）
5. 歯科保健指導のための教職員の校内外の研修の重要性を認識し、実践していること。
6. 歯科保健についてP T A等の組織、地域との連携が円滑に行われ具体的な取組がみられること。また、学校保健委員会で具体的に歯科保健を含む心身の健康問題が取り上げられていること。
7. 学校歯科医が定期健康診断以外にも執務し、事後措置、健康相談、個別的な歯科保健指導にも熱心に取り組み、積極的に勤務していること（ここでの「勤務」とは、電話等での相談を含まない）。また、学校保健委員会にも積極的に出席していること。
8. 健康診断を保健管理面に限らず、保健教育上に配慮し活用していること。